

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	エキゾチックアニマル	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Exotic Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。また勤務しながら夜間大学にて教員免許を取得しており、その後専門学校職員としての職に就いている。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。手掛ける分野はエキゾチックアニマル全般で、特にエキゾチックアニマルに造詣が深い。動物への多角的な視点で授業を行う。				
授業の概要・目的	<p>エキゾチックアニマルとはペット動物の中で犬と猫を除いたものと定義されることが多く、その対象種は多岐にわたる。これらの動物たちを理解するためには多角的な視点が必要である。授業ではハムスターやマウス、ハリネズミなどの小型哺乳類を基本とし、加えて爬虫類や両生類などのペット動物について、生態や分類などの飼育管理に応用できる知識を習得する。</p>				
到達目標	エキゾチックアニマルに対する正しい知識を持った飼育員となる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物の分類についての概要を学ぶ	16	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
2	ほ乳類の分類について体系的に学ぶ1	17	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
3	ほ乳類の分類について体系的に学ぶ2	18	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
4	爬虫類両生類の分類について体系的に学ぶ1	19	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
5	爬虫類両生類の分類について体系的に学ぶ2	20	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
6	節足動物の分類について体系的に学ぶ	21	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
7	げっ歯類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する1	22	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
8	げっ歯類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する2	23	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
9	有袋類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する1	24	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
10	有袋類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する2	25	餌動物の適正な取り扱い理論を理解する1		
11	肉食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1	26	餌動物の適正な取り扱い理論を理解する2		
12	肉食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2	27	エキゾチックアニマルにまつわる法規について理解する		
13	草食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1	28	エキゾチックアニマルと社会との関りについて理解する1		
14	草食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2	29	エキゾチックアニマルと社会との関りについて理解する2		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物に関するニュースに興味を持ち、各自で調べることを勧める。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	普段から飼育書や図鑑を読んでおくこと。インターネット上の情報を鵜呑みにせず学習に臨むことを期待する。				
評価方法・基準	合計100点とし、課題50%、出席率50%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	潜水士対策講座	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Seminar of Professional Diving	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的	<p>国家資格である潜水士は、水中で作業することが多い水族館職員には必須の資格です。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることができない場合があります。本授業では、イメージしにくい水圧の影響や高気圧障害などを、具体的な事例や事故などを紹介しながら説明していきます。</p>				
到達目標	潜水士の国家試験に合格する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する。	16			
2	ボイルの法則、シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。	17			
3	アルキメデスの法則、パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する	18			
4	水中で利用するポンペに充填されている気体(酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど)の性質を理解する。	19			
5	潜水器(硬式潜水、軟式潜水)の特徴、潜水方法(トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水)などの特徴を理解する	20			
6	潜水方法(スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水)などの特徴、を理解する	21			
7	事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する	22			
8	送気系統、潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。	23			
9	潜水に関する法律を理解する。本資格の実践+B19:F2問題の解説	24			
10	循環器、呼吸器、神経系などの器官が水圧の影響を受けたとき、どのような問題があるのかを理解する。	25			
11	水圧が関係する様々な高気圧障害(減圧症、窒素酔い、副鼻腔障害、酸素中毒、一酸化炭素中毒など)を理解する	26			
12	水温が高気圧障害にどのように影響を与えるかを理解する。	27			
13	潜水に関する法律を理解する。本資格の実践問題の解説	28			
14	本資格の実践問題と解説	29			
15	後期の振り返りおよび本試験の試験対策(過去問)	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	過去問をたくさん解いて問題に慣れる。授業内で配布するまとめプリントを覚える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	潜水士テキスト(中央労働災害防止協会)、潜水士 過去問・解答解説集(TAKARA license)				
参考書	なし				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物関連法規Ⅱ	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Animal Related Laws and RegulationsⅡ	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	行政書士として人と動物に関する各種法律手続きなどに24年関わってきた。また並行して認定動物看護師、狩猟者免許を所持し狩猟を行う。				
授業の概要・目的	<p>家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。 				
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16			
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要	17			
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病清浄国について	18			
4	狂犬病予防法(3) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など	19			
5	狂犬病予防法(4) 狂犬病予防法の概要その2 対象動物、輸入禁止動物など	20			
6	狂犬病予防法(5) 狂犬病予防法の概要その3 飼い主と行政の義務	21			
7	動物が亡くなった場合のルール(1)人と動物の埋葬ルールの違い	22			
8	動物が亡くなった場合のルール(2)化製場法について	23			
9	動物愛護法(1)動物愛護法制定・改正までの経緯	24			
10	動物愛護法(2)目的・基本原則など	25			
11	動物愛護法(3)動物虐待に対する罰則 その1	26			
12	動物愛護法(4)動物取扱業の概要 その1	27			
13	動物愛護法(5)動物取扱業の概要 その2	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	後期学習内容の復習・振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからの一を作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	水族館飼育演習	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Aquatic Animal Management	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	大阪コミュニケーションアート専門学校ドルフィントレーナー専攻卒業後、アクアワールド茨城県大洗水族館に5年間勤務し、主に水生生物の飼育業務やイルカショーの運営を担当した。その後、みさき公園に6年間勤務し、海洋哺乳類(イルカ・アシカ)やペンギン・カワウソの飼育業務に携わった。				
授業の概要・目的	1882年に初めて上野動物園に水族館が創設されて以降、現在までに大小300件を優に超える数の水族館施設が建設されてきた。近年においても水族館施設の建設の勢いは衰えておらず、水族館の形態は多様化し、各地に個性豊かな水族館が認められる。しかしながら、水族館の基本業務は、水生生物の飼育であることは不変である。たしかに、水生生物は多岐にわたりその飼育方法は、水族館や飼育員ごとにも違いは認められるが、基本は存在する。本授業では水族館で飼育業務を担当するにあたり必要な最低限の知識と技術を身につける。				
到達目標	水族館の飼育にかかわる活動が現場でどのように行われているのかを知る。飼育水の管理に始まり、水生生物の飼育・繁殖がどのように行われているのかを講義と演習を通じて理解する。魚類、サンゴ類、クラゲ類、水草などの水生生物の飼育の正しい専門知識を説明できるとともに、とくに魚類については飼育・管理できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	水族館の展示(展示形態、生体展示、補助的展示)、水族の収集と輸送	16	ライブロックの入手、作成について		
2	水族館の飼育・展示設備(飼育水管理設備)	17	サンゴ飼育にとって重要な水温と水流について理解する		
3	水族館の飼育・展示設備(水槽設備)	18	サンゴ飼育に必要な水質の管理について理解する		
4	水族館の飼育・展示設備(電気設備・照明設備)	19	サンゴ水槽に使用する照明について理解する		
5	水族館における飼育水の調達および人工海水の作成	20	クラゲ飼育に重要な水温と水流について理解する		
6	魚類の飼育における水槽および濾過フィルターを選択	21	クラゲ飼育に必要な水質の管理、給餌方法について理解する		
7	プロテインスキマーの機能、設置	22	飼育下におけるクラゲ類の繁殖		
8	殺菌灯の仕組み、ウォータークーラーの選定	23	タッチングプールの取り扱い、収容生物の選定		
9	その他の器材(砂・水温計・水流ポンプ)の使用について	24	水槽レイアウト(構図、デザイン)		
10	水質(アンモニア、亜硝酸、硝酸)の測定と管理	25	水族の病気の予防と対処について(ウイルス病)		
11	魚類の飼料・餌料について	26	水族の病気の予防と対処について(細菌病、その他の病気)		
12	水草の種類と飼育	27	水族館における水生哺乳類(イルカ類)の飼育の現状		
13	水草の飼育と繁殖	28	水族館における水生哺乳類(鯨脚類、カワウソ類)の飼育の現状		
14	飼育ノートの作成、飼育データの管理	29	水族館における鳥類(ペンギン類)の飼育の現状		
15	前期授業の総括	30	後期授業の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業最後にその時間の授業内容についての課題を与えるので、次の授業までに課題への回答を作る。授業中に書き留めたメモを元に授業ノートを作成する。				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 水族館編全5巻 公益社団法人 日本動物園水族館協会				
参考書	新版水族館学 鈴木克美・西源二郎著 東海大学出版会/研究する水族館 猿渡敏郎・西源二郎 東海大学出版会/大人のための水族館ガイド 錦織一臣監修・編著 養賢堂/その他適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は基本的に筆記試験80%、出席率20%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	水生生物	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Biology of Aquatic Animals	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	農学博士。現在本校の専任講師および近畿大学農学部水産学科非常勤講師。環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO2および農業が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ブラタ大学にてブラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。				
授業の概要・目的	<p>海洋などの水圏には、イルカ等の哺乳類のみならず魚類、無脊椎動物、水生植物などが生息し、食物連鎖を通じて複雑な生態系を形成している。水族館などの水生生物に関する業種で活躍するためには、水生生物全般の分類、進化、生理、生態などについての基礎的知識を習得する必要がある。本授業では、水生哺乳類を除く、魚類、無脊椎動物、藻類などの水生生物を取り扱う。</p>				
到達目標	<p>水族館などでよく見かける代表的な水生無脊椎動物、魚類、水生植物の分類や興味深い生態について説明できるようになる。また別に学ぶ海洋哺乳類とあわせて水圏生態系について議論できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	総論、海綿動物・刺胞動物・有櫛動物	16			
2	軟体動物(多板類・巻貝類・ウミウシ類)	17			
3	軟体動物(頭足類・二枚貝類)	18			
4	節足動物(カブトガニ綱・鰓脚綱・顎脚綱・トゲエビ亜綱等)	19			
5	節足動物(オキアミ目、十脚目①旧異尾亜目)	20			
6	節足動物(十脚目②旧長尾亜目・旧短尾亜目)	21			
7	棘皮動物・半索動物・脊索動物	22			
8	無顎類	23			
9	軟骨魚類	24			
10	硬骨魚類(ウナギ目・ニシン目・コイ目)	25			
11	硬骨魚類(ナマズ目・サケ目・タラ目)	26			
12	硬骨魚類(スズキ目・フグ目)	27			
13	水生植物①(藍色・紅色・緑色・不等毛植物門)	28			
14	水生植物②(渦鞭毛・ユーグレナ・種子植物門)	29			
15	授業の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし。講師作成のパワポで学習する。				
参考書	写真でわかる磯の生き物図鑑(トンボ出版)。小学館の図鑑Z(ゼット)日本魚類館 中坊徹次編 小学館/魚類学 矢部 衛 他編 恒星社厚生閣。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物臨床検査演習	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Examination	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	動物施設で必要とされる様々な検査について理解し、スムーズに検査等の補助を行えるよう実践的に学ぶ。				
到達目標	犬・猫を中心に様々な検査内容の基礎を理解し、多くの動物に応用できるようになる。また、検査結果から病態や疾患を推測できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物臨床検査とは(導入)	16			
2	カルテについて	17			
3	顕微鏡と使用方法	18			
4	血液検査演習	19			
5	尿検査演習	20			
6	便検査演習	21			
7	医療品と投薬	22			
8	身体検査(一般)	23			
9	身体検査(聴診)	24			
10	心電図(理論)	25			
11	レントゲン検査・保定1	26			
12	レントゲン検査・保定2	27			
13	レントゲンの評価法	28			
14	検査データの取り扱いと分析方法	29			
15	学習内容の復習と振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	各回授業時に課題を配布する				
教科書・テキスト	動物病院検査技術ガイド(テクサン出版社)				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物福祉	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Animal Welfare	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	福祉に配慮した飼育・トレーニングをドッグトレーナーとして長年実践し、動物園・水族館の飼育員・トレーナーへの、動物福祉向上のための実践についての講義も多数行っている。				
授業の概要・目的	近年、飼育動物の福祉に配慮した飼育・管理のあり方が、世界の動物関連施設で大きなテーマとなっており、日本でも例外ではない。本講義では、飼育動物の福祉(幸福)をテーマに、動物福祉をささえるサイエンスとしての行動分析学(応用行動分析)、行動分析学を応用したトレーニング(ハズバンドアリートレーニング)、環境エンリッチメントについて正しい知識を身につけることを目的とする。				
到達目標	福祉に配慮した飼育・管理について理解し、それを実践する上で必要な知識を身につける。応用行動分析に基づいた福祉実践とはどのようなものかについて、説明ができる。福祉の向上に必要な実践作業とはどのようなものかを理解し、それを説明できる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物福祉と応用行動分析	16	レスポナデント 応用編1		
2	行動の記述・三項随伴性	17	レスポナデント 応用編2		
3	正の強化・負の強化とその随伴性	18	ハズバンドアリー 1		
4	正の弱化・負の弱化とその随伴性	19	ハズバンドアリー 2		
5	消去と行動の原因	20	ハズバンドアリー 3		
6	正の弱化のリスク	21	行動的動物福祉 1		
7	弁別・般化・プロンプト	22	行動的動物福祉 2		
8	強化のスケジュールと行動連鎖	23	行動的動物福祉 3		
9	行動の記録 1	24	動物園における環境エンリッチメント(企画1)		
10	行動の記録 2	25	動物園における環境エンリッチメント(企画2)		
11	行動の機能と分化強化 1	26	動物園における環境エンリッチメント(実践1)		
12	行動の機能と分化強化 2	27	動物園における環境エンリッチメント(実践2)		
13	レスポナデント 基礎編1	28	動物園における環境エンリッチメント(実践3)		
14	レスポナデント 基礎編2	29	動物園における環境エンリッチメント(実践4)		
15	前期の総括・まとめ	30	後期の総括・まとめ		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	各回授業時に課題を配布する				
教科書・テキスト	各回授業時にパワーポイントを用いて説明する				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	・授業への積極的な参加(平常点)＋筆記試験の成績によって、総合的に評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物繁殖生理	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Animal Breeding and Physiology	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	①サファリパークにて飼育動物全種の健康管理および診療(11年) ②JICA派遣:グアテマラ野生動物保護センターにて密猟野生動物の保護救護野生復帰の業務(2年) ③ 往診専門動物病院開業:展示動物動物、犬猫の診療および野生動物の不動化作業(12年目) ④岡山県家畜保健衛生所にて嘱託獣医師:家畜防疫作業および検査担当(15年目)				
授業の概要・目的	<p>希少動物の減少や野生動物の捕獲・導入が厳しくなっている現在、動物施設における展示動物の確保は急務の課題であり、飼育下での繁殖技術の向上が求められている。そのため、本授業では主に動物施設で飼育されている動物の繁殖に必要な知識を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>動物施設における繁殖業務の重要性を理解する。また、動物によって異なる繁殖技術と飼育技術を知り、動物繁殖の向上に貢献できる人材になる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物の生殖とメカニズム1	16			
2	動物の生殖とメカニズム2	17			
3	動物の繁殖行動1	18			
4	動物の繁殖行動2	19			
5	肉食動物の繁殖生理	20			
6	草食動物の繁殖生理	21			
7	有袋類の繁殖生理	22			
8	海洋動物の繁殖生理	23			
9	鳥類の繁殖生理	24			
10	人工繁殖1	25			
11	人工繁殖2	26			
12	人工哺育と人工孵化1	27			
13	人工哺育と人工孵化2	28			
14	栄養と飼料	29			
15	授業の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物の繁殖に関するニュースソースに目を通して理解し自分の考えをまとめる習慣をつける。				
教科書・テキスト	適宜資料を配付します。				
参考書	改定版 新・飼育ハンドブック 動物園編/水族館編				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験を100%とする。ただし、筆記試験結果が60点未満の場合、授業出席割合を勘案する場合もある。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物飼育演習Ⅱ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Zoo Animal ManagementⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
実務経験概要	約10年間ふれあい動物園にて運営及び飼育・トレーニングに携わる。2018年より理想のふれあいを目指し会社を設立し、動物カフェを経営。				
授業の概要・目的	動物飼育演習Ⅰで学習した動物種以外の動物を対象に、実際に動物管理を行い、実践的に動物の取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。				
到達目標	動物の飼育管理における基礎知識・技術を習得し適正飼育することが出来るようになる。また、様々な動物種の飼育方法を、これまでの知見をもとに自分で考え工夫することが出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育オリエンテーション(前期)	16	飼育オリエンテーション(後期)		
2	肉食動物の飼育管理全般 ※飼育管理全般:習性・給餌方法・健康管理・衛生管理・繁殖方法・保定・捕獲・飼育道具など	17	肉食動物の飼育管理全般		
3	肉食動物の飼育管理全般	18	肉食動物の飼育管理全般		
4	草食動物の飼育管理全般	19	草食動物の飼育管理全般		
5	草食動物の飼育管理全般	20	草食動物の飼育管理全般		
6	雑食動物の飼育管理全般	21	雑食動物の飼育管理全般		
7	雑食動物の飼育管理全般	22	雑食動物の飼育管理全般		
8	鳥類の飼育管理全般	23	鳥類の飼育管理全般		
9	鳥類の飼育管理全般	24	鳥類の飼育管理全般		
10	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	25	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
11	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	26	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
12	カメ類・両生類の飼育管理全般	27	カメ類・両生類の飼育管理全般		
13	カメ類・両生類の飼育管理全般	28	カメ類・両生類の飼育管理全般		
14	カメ類・両生類の飼育管理全般	29	カメ類・両生類の飼育管理全般		
15	学習内容のまとめと総括(前期)	30	学習内容のまとめと総括(後期)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物飼育演習 I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Zoo Animal Management I	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
実務経験概要	約10年間ふれあい動物園にて運営及び飼育・トレーニングに携わる。2018年より理想のふれあいを目指し会社を設立し、動物カフェを経営。				
授業の概要・目的	本開講科目では、実際に動物管理を行い、実践的に動物の取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。				
到達目標	動物の飼育管理における基礎知識・技術を習得し適正飼育することが出来るようになる。また、様々な動物種の飼育方法を、これまでの知見をもとに自分で考え工夫することが出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育オリエンテーション(前期)	16	飼育オリエンテーション(後期)		
2	肉食動物の飼育管理全般 ※飼育管理全般:習性・給餌方法・健康管理・衛生管理・繁殖方法・保定・捕獲・飼育道具など	17	肉食動物の飼育管理全般		
3	肉食動物の飼育管理全般	18	肉食動物の飼育管理全般		
4	草食動物の飼育管理全般	19	草食動物の飼育管理全般		
5	草食動物の飼育管理全般	20	草食動物の飼育管理全般		
6	雑食動物の飼育管理全般	21	雑食動物の飼育管理全般		
7	雑食動物の飼育管理全般	22	雑食動物の飼育管理全般		
8	鳥類の飼育管理全般	23	鳥類の飼育管理全般		
9	鳥類の飼育管理全般	24	鳥類の飼育管理全般		
10	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	25	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
11	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	26	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
12	カメ類・両生類の飼育管理全般	27	カメ類・両生類の飼育管理全般		
13	カメ類・両生類の飼育管理全般	28	カメ類・両生類の飼育管理全般		
14	カメ類・両生類の飼育管理全般	29	カメ類・両生類の飼育管理全般		
15	学習内容のまとめと総括(前期)	30	学習内容のまとめと総括(後期)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物園・水族館研究	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Study of Zoo & Aquarium	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的	動物園・水族館という博物館相当施設が成立した経緯について学び、それらがなぜ重要な社会インフラの一つとして現在も存在し続けているかを認識する。また、動物園・水族館で行わなければならない多岐にわたる業務内容の中でも、責任者として必ず身につけておかなければならない基礎知識を身につけることにより、動物園・水族館業務の即戦力となることを目指す。				
到達目標	学生一人一人が各自の理想とする動物施設を構築し、そのために必要な業務を理解し、特に動物の福祉を念頭に置いた業務遂行ができるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	世界の動物園の古代から現代に至るまでの歴史を理解する	16	過去の展示の歴史を学び、近代動物園において必要とされる展示方法を概説できるようになる。		
2	日本の動物園の現代にいたるまでの歴史を理解する	17	近代動物園の持つ社会的使命を全うするための展示計画の立案方法を身につけ解説できるようになる。		
3	世界の動物園と日本の動物園の社会における位置づけの違いを理解する	18	各テーマに基づいた展示方法を実施するうえで必要となる知識を理解し、説明できるようになる。		
4	天王寺動物園を例に日本の動物園の展示の歴史を理解する	19	展示を構成する動物たちが彼らの本来の生活に近い状況を飼育下環境で再現できる工夫を身につけ実践できるようになる。		
5	天王寺動物園で実施された展示計画を通して、具体的な展示形式について理解する	20	様々な展示技法を学び、それぞれのメリット、デメリットを上手に組み合わせる方法を概説できるようになる。		
6	天王寺動物園で実施されている展示を学び、展示におけるストーリー立ての重要性を理解する	21	環境エンリッチメントがこれまでどのようにして動物園の展示を充実させ、動物の福祉の向上に貢献してきたかを概説できるようになる。		
7	天王寺動物園で実施されている展示を通じて擬岩や擬木技術の重要性を理解する	22	環境エンリッチメントを分類し、それぞれのメリット、デメリットを十分に理解し概説できるようになる。		
8	天王寺動物園で実施されている展示を通じて動物生態学や植物生態学の知識の重要性を理解する	23	飼育環境改善の技法としての環境エンリッチメントを十分に理解し説明できるようになる。		
9	天王寺動物園で実施されている展示を通じて環境教育や環境エンリッチメントの重要性を理解する	24	飼育下環境という限られた環境の制約を軽減する手法としての環境エンリッチメントを概説できるようになる。		
10	天王寺動物園で行われている環境エンリッチメントを通して環境エンリッチメントを正しく理解する	25	展示室と比べると気づかれにくい寝室の環境エンリッチメントについてもしっかりと学習し概説できるようになる。		
11	動物園に関する国内法令や国際条約について学び、遵守すべき規制について理解する	26	環境エンリッチメントを実施するうえで衛生管理上の問題点を理解し概説できるようになる。		
12	現代における動物分類学を学び、展示に応用できるよう理解する	27	混合飼育、群れ飼育といった方法も環境エンリッチメントとなりえるが、それに伴うデメリットもしっかりと理解し、解説できるようになる。		
13	国際命名規約について学び、正しく展示に応用できるよう理解する	28	飼料を基にした環境エンリッチメントは効果的なものではあるが、実施する上で十分に理解しておかねばならないことを身につけ解説できるようになる。		
14	脊椎動物の分類について学び、展示に応用できるよう理解する	29	環境エンリッチメントを実施することにより可能となる定期的な健康診断ではあるがそれに伴うリスクを回避するための方法を理解し解説できるようになる。		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学習(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック動物園篇3概論・分類・生理・生態				
参考書	「動物園学」 文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	畜産飼養	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Feeding and Breeding Management for Domestic Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要	獣医師として30年以上家畜の診療及び生産獣医療・予防獣医療に携わってきた。				
授業の概要・目的	<p>本講義の対象動物である家畜は、古代より最も密接に人と関わってきた動物であり、最も研究されてきた動物といっても過言ではない。したがって、家畜を学ぶことは全ての動物の飼育の基本につながる。また、現在の畜産には、安全で栄養豊かな食料の生産に加え、生命とのふれあいや食体験などの学びの場としての役割も期待されていることから、家畜を正しく飼養し、健康を維持しながら生産性を向上させるための知識を修得する。</p>				
到達目標	<p>家畜の飼育に必要な知識と技術を修得し、家畜の特性や飼育環境を理解するとともに、家畜の生産性の向上や合理的な家畜管理を図る能力を身につけ、実際の飼養管理に生かすことができるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	家畜の定義・分類及び畜産の概要について理解する。	16	乳牛の特徴・身体各部の名称・発育と体形、体格・胃の構造と働き・栄養摂取のしくみについて理解する。		
2	馬の起源・仲間及び家畜としての利用について詳説できるようになる。	17	乳量と乳質・乳牛の生産サイクル・泌乳のしくみについて理解する。		
3	馬の主な品種とその特徴について理解する。	18	乳牛の性周期・生殖器の構造について説明できるようになる。		
4	馬の個体識別(毛色及び毛色の遺伝・白斑など)について説明できるようになる。	19	乳牛のエサの考え方・エサの種類・飼料作物・サイレージ・子牛の育成・糞尿の処理とその利用について理解する。		
5	馬の身体各部の名称・発育と体形、体格・栄養摂取のしくみについて理解する。	20	酪農家の一日の仕事・牛乳の処理と加工・乳質の改善と向上・牛舎の種類・経営形態とその特徴について概説できるようになる。		
6	馬のエサの考え方・エサの種類・子馬の育成並びに販売について理解する。	21	乳牛の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。		
7	馬の生産サイクル・生殖器の構造・繁殖障害・改良と選抜について理解する。	22	乳牛の改良と選抜・酪農の歴史・乳牛の品種・市乳の製造過程と流通経路を理解する。		
8	馬の飼育環境ときゅう舎・施設について詳説できるようになる。	23	肉牛の特徴・身体各部の名称・牛の扱い方・消化器の特徴と消化能力について詳説できるようになる。		
9	馬の歩様や馬特有の行動について説明できるようになる。	24	肉牛の生産サイクル・生殖器の構造・繁殖障害・肉牛の発育・肉質の決まり方・改良と選抜について理解する。		
10	馬の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について理解する。	25	肉牛のエサの考え方・エサの種類・繁殖牛の育成・素牛の選び方・糞尿の処理と利用について理解する。		
11	山羊の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	26	肉牛の管理・繁殖管理と肥育管理・牛舎の様式・経営形態とその特徴について説明できるようになる。		
12	綿羊の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	27	肉牛の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。		
13	豚の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	28	胚移植とクローン技術について詳説できるようになる。		
14	豚のエサの特徴・改良と選抜・健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。	29	合理的な家畜管理を図るために自分の考えを述べることができるようになる。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	農学基礎セミナー(新版)家畜飼育の基礎 並河澄 著 農村漁村協会				
参考書	日本の家畜・家禽 小宮輝之 著 学研 その他授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率10%、受講態度10%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ファーム演習	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Farm Animal Management	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	サファリパーク(秋吉台サファリランド)にて飼育員に従事、その後移動動物園を独立開業。				
授業の概要・目的	<p>畜産飼養で学んだ知識をもとに、実際に畜産牧場や観光牧場において動物の飼育管理を行いながら、実践的に動物の取り扱いにおける技術を習得することを目的とする。また、乗馬施設において馬の飼育管理とともに騎乗技術も養う。</p> <p>畜産・観光牧場業界の「ビジネスの仕組み」を理解し、マネージャーとして仕事をするための知識・技術を身につけ、次世代の観光牧場、畜産業界を担える人材の育成を目指す。</p>				
到達目標	<p>家畜動物の飼育管理における基礎知識・技術を習得し適正飼育することができるようになる。それに加え、基本的な乗馬知識を習得し騎乗できるようになる。</p> <p>また、お客様に満足していただけるサービスや商品の開発について考えることができるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	牧場施設の紹介	16	乗馬施設の紹介		
2	家畜動物の飼育管理(給餌)①	17	馬の給餌		
3	家畜動物の飼育管理(給餌)②	18	馬の健康管理		
4	家畜動物の飼育管理(健康管理)①	19	馬の衛生管理		
5	家畜動物の飼育管理(健康管理)②	20	厩舎の管理		
6	家畜動物の飼育管理(衛生管理)①	21	馬装の仕方		
7	家畜動物の飼育管理(衛生管理)②	22	騎乗訓練①		
8	家畜動物の飼育管理(飼育道具)	23	騎乗訓練②		
9	家畜動物の飼育管理(施設管理)	24	騎乗訓練③		
10	飼育管理作業①	25	騎乗訓練④		
11	飼育管理作業②	26	騎乗訓練⑤		
12	飼育管理作業③	27	騎乗訓練⑥		
13	サービス提案と商品開発①	28	騎乗訓練⑦		
14	サービス提案と商品開発②	29	接客とサービス		
15	これまでの学習内容の総括	30	これまでの学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	陸上動物	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Biology of Terrestrial Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本授業では、動物園/水族館で飼育されている代表的な陸上動物について、その生態・生理・特徴などについて学習する。それに加え、それらの種に関する給餌や展示、トレーニングなど飼育管理に応用できる知識を習得する。</p>				
到達目標	<p>主に動物園/水族館で飼育されている陸上動物に対する正しい知識を持ち、説明できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育動物と動物福祉	16	肉食動物の生理・生態		
2	犬の生理・生態	17	肉食動物の飼育管理と公衆衛生		
3	犬の飼育管理と公衆衛生	18	草食動物の生理・生態		
4	ネコの生理・生態	19	草食動物の飼育管理と公衆衛生		
5	ネコの飼育管理	20	雑食動物の生理・生態		
6	家畜動物の生理・生態	21	雑食動物の飼育管理と公衆衛生		
7	家畜動物の飼育管理と公衆衛生	22	猛禽類の生理・生態		
8	げっ歯類の生理・生態	23	猛禽類の飼育管理と公衆衛生		
9	げっ歯類の飼育管理と公衆衛生	24	トカゲ類の生理・生態		
10	オウム・インコの生理・生態	25	トカゲ類の飼育管理と公衆衛生		
11	オウム・インコの飼育管理と公衆衛生	26	ヘビ類の生理・生態		
12	動物のトレーニング	27	ヘビ類の飼育管理と公衆衛生		
13	動物の保護	28	動物の収集と輸送		
14	動物の飼育設備	29	動物の保管と展示		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物に関するニュースに興味を持ち、各自で調べることを勧める。				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編				
参考書	普段から飼育書や図鑑を読んでおくこと。インターネット上の情報を鵜呑みにせず学習に臨むことを期待する。				
評価方法・基準	合計100点とし、筆記試験50%、出席率50%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物関連法規 I	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Animal Related Laws and Regulations I	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>野生動物を中心として、人と動物が関わる法律について学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。 				
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16			
2	ワシントン条約(1) 日本語と英語の正式名称、発効までの背景など	17			
3	ワシントン条約(2) レッドリストとの違い	18			
4	ワシントン条約(3) 留保など	19			
5	ワシントン条約(4) 附属書1、附属書2、附属書3	20			
6	種の保存法(1) 制定の背景、法律の概要	21			
7	種の保存法(2) 国際希少野生動植物種など	22			
8	種の保存法(3) 国内希少野生動植物種、罰則など	23			
9	外来種と外来生物(1) 外来種と外来生物の違いなど	24			
10	外来種と外来生物(2) 意図的導入と非意図的導入の実例 その1	25			
11	外来種と外来生物(3) 意図的導入と非意図的導入の実例 その2	26			
12	外来生物法の概要(1) 施行年、目的など	27			
13	外来生物法の概要(2) 特定外来生物の規制内容	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	前期学習内容の復習・振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからの一を作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Anatomy and Physiology of Animals	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>動物園など動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の解剖学的・生理学的要因を学ぶ。動物の体のしくみについての基礎的知識を習得し、これから実施していく動物園などでの業界研修のときに必要とする知識を習得することを目標とする。</p>				
到達目標	<p>受講者は、この授業を履修することによって、動物を仕事で扱う際に何か問題が起きたとき、その動物がなぜそのようなになっているのか？ その問題の根底にある原因を考えられるようになることを目標とする。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	【骨格系1】 骨格の構造と機能を理解する。	16			
2	【骨格系2】 Caイオンと骨の関係を理解する。	17			
3	【骨格系3】 動物たちの行動と骨格のしくみの関係を理解する。	18			
4	【循環器系1】 心臓構造と血液循環について理解する。	19			
5	【循環器系2】 循環系の検査方法(心拍数・血圧・心電図)について理解する。	20			
6	【中枢神経系】 脳の役割と検査方法(脳波)について理解する。	21			
7	【視覚1】 眼の構造と機能について理解する。	22			
8	【視覚2】 色覚のしくみについて理解する。	23			
9	【視覚3】 動物たちの行動と色覚との関係を理解する。	24			
10	【視覚4】 眼以外の視覚(松果体・赤外線感知)	25			
11	【聴覚1】 動物の聴覚のしくみを理解する。	26			
12	【聴覚2】 動物のエコロケーションのしくみを理解する。	27			
13	【嗅覚】 動物の聴覚のしくみを理解する。	28			
14	【味覚】 動物の味覚のしくみを理解する。	29			
15	【総括授業】総括授業を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前にテキスト「動物の体のしくみ」を読んでおくこと。授業では、白板に板書を行わないため、授業中は説明したことをメモし、受講後、メモを整理し授業内容をまとめること。				
教科書・テキスト	動物の体のしくみ				
参考書	授業内で随時参考資料を紹介				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Animal Health Care	開講期間	前期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本講義は哺乳類と鳥類が対象である。まず様々な動物と解剖生理学および生態、つまり、体のつくりや仕組みにどのような違いがあるのか、野生では何を食べているのか、どのような暮らしをしているのかについて理解を深める。その上で、動物を心身共に健康に飼育するには、どのような食べ物や環境を提供してやればよいのかを学ぶ。また、動物分類、学名、関連する法律について、動物学の基本的な事を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>動物を心身ともに健康に飼育するには、飼育員が正しい知識を持っていることが必須である。この授業を通して、将来自分が担当する動物種に関する解剖生理学や生態学を身につけ、適切に飼育できるようになることを目標とする。さらに自分でウェブサイトや文献を調べて知識を深めることができるよう、代表的な動物学英単語も学ぶ。また、工作上必要になる動物分類や学名、関連する法律について理解できるようにする。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	哺乳類の解剖生理学1:哺乳類の基本の骨格を学ぶ。	16			
2	哺乳類の解剖生理学2:代表的な動物の骨格を比較する。基本的な骨の名称を学ぶ。骨の構造と役割を知る。	17			
3	動物の分類と学名1:動物園研究でも学ぶ動物分類について理解を深め、国内や海外の動物園で問題となっている亜種間雑種の課題などについて見識を深める。	18			
4	動物の分類と学名2:学名の作り方、見方について学ぶ。専門書や海外文献での学名表示の意味を知る。CITESなどで使われる動物種の学名表示について知る。	19			
5	肉食動物1:食肉目に含まれる科、属、種の動物の解剖生理学的特徴、食性、生態を知る。	20			
6	肉食動物2:純粋な肉食性であるネコ科動物の栄養学的特徴を学ぶ。食肉目を飼育する上での注意事項を学ぶ。	21			
7	有蹄類1:有蹄類に属する科、属、種を知る。蹄とは何か、構造、各部の名称、役割を知る。角の分類、構造、役割を知る。	22			
8	有蹄類2:前胃発酵有蹄類の胃の解剖生理学、食べ物の消化吸収の仕組み、反芻とは何かを学ぶ。	23			
9	有蹄類3:後腸発酵有蹄類の腸の解剖生理学、食べ物の消化吸収の仕組みを学ぶ。	24			
10	生殖器:哺乳類の雄、雌の生殖器の位置、相棒生理学を学ぶ。	25			
11	鳥類1:飛翔の仕組み 翼、筋肉、肺など哺乳類とは異なる特徴を学ぶ。	26			
12	鳥類2:鳥類の感覚器、羽の構造、発色の方法について学ぶ。	27			
13	鳥類3:鳥類の消化器、泌尿生殖器について学ぶ。	28			
14	授業の総括	29			
15	授業の振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園などの動物展示施設や博物館に見学に行き、授業で学んだ座学を復習するようにする。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)、哺乳類の生物学(東京大学出版会)、鳥類学(新樹社)、BONES(早川書房)その他、授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験を100%とする。ただし、筆記試験結果が60点未満の場合、授業出席割合を勘案する場合もある。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	環境教育	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Environmental Study	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本講義では、人間社会における野生動物の問題を知り、動物園や水族館等の様々な動物施設で提供できる環境教育プログラムや自然観察・野外活動等の教育活動について体験を通して学び、将来の現場において教育プログラムの企画・担当ができる人材となることを目指す。</p>				
到達目標	<p>様々な環境教育や自然体験プログラムを経験しており、現場の特徴に併せて企画・指導することができる。 生き物を題材にした環境教育プログラム「プロジェクトワイルド」を体験を通して指導法等を学び習得する。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	様々な環境問題の概要理解、SDGs等の解決に向けた活動の紹介等	16	生き物を題材にした環境教育プログラムの体験1		
2	人間関係構築プログラムの体験と理解1	17	生き物を題材にした環境教育プログラムの体験2		
3	人間関係構築プログラムの体験と理解2	18	生き物を題材にした環境教育プログラムの指導実践1		
4	野草を活用した自然体験・食育プログラムの体験と習得	19	生き物を題材にした環境教育プログラムの指導実践2		
5	環境教育や自然体験の必要性や体験学習法についての理解	20	野生動物の被害事例1		
6	ネイチャーゲームなどの自然体験プログラムの体験1	21	野生動物の被害事例2		
7	ネイチャーゲームなどの自然体験プログラムの体験2	22	野生動物対策方法1		
8	グローイングアップワイルド等の環境教育プログラムの体験	23	野生動物対策方法2		
9	里山保全と利活用についての理解と実践1	24	野生動物との共存1		
10	里山保全と利活用についての理解と実践2	25	野生動物との共存2		
11	里山保全と利活用についての理解と実践3	26	野生動物の痕跡トラッキング実習1		
12	里山保全と利活用についての理解と実践4	27	野生動物の痕跡トラッキング実習2		
13	様々な環境問題の概要理解、体験型の環境教育プログラムの体験1	28	これからの動物園で必要される教育や環境教育についての考察と企画1		
14	様々な環境問題の概要理解、体験型の環境教育プログラムの体験2	29	これからの動物園で必要される教育や環境教育についての考察と企画2		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	沈黙の春 レイチェルカーソン著 新潮文庫 / むすんでみよう子どもと自然 井上美智子等 編著 / その他授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は試験評価80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	インタープリテーション	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Interpretive Training	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ネイチャーガイドや動物園・水族館のスタッフは、自然環境とそこに棲む生物や地域特性について、お客様に楽しみながら理解してもらうことが重要です。そのためには、全く興味がない人から関心が高い人まで、お客様のニーズにあった解説テクニックが必要です。本授業では、まず解説者本人がインタープリテーションへの理解を深め、より多くの人を楽しんでもらえる解説方法を実践的に学びます。</p>				
到達目標	<p>対象地域の自然環境や地域特性について分析できるようになる。 お客様のニーズに合わせたガイド内容を企画することができるようになる。 想定外の事態にも臨機応変に対応できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	インタープリテーションとは(定義と原則)について理解する	16	インタープリテーション体験Ⅱ①		
2	インタープリターの役割	17	インタープリテーション体験Ⅱ②		
3	参加者の特徴とニーズ①	18	インタープリテーション体験Ⅱ③		
4	参加者の特徴とニーズ②	19	インタープリテーション体験Ⅱ④		
5	インタープリテーション体験Ⅰ①	20	テーマの選び方・分析【実践】①		
6	インタープリテーション体験Ⅰ②	21	テーマの選び方・分析【実践】②		
7	インタープリテーション体験Ⅰ③	22	プログラム内容の作成・調査【実践】①		
8	テーマの選び方・分析方法【練習】①	23	プログラム内容の作成・調査【実践】②		
9	テーマの選び方・分析方法【練習】②	24	プログラム内容の作成・調査【実践】③		
10	プログラムの作成方法【練習】①	25	プログラム内容の作成・調査【実践】④		
11	プログラムの作成方法【練習】②	26	プログラム内容の作成・調査【実践】⑤		
12	プログラム内容の作成・調査方法【練習】①	27	ツアー実践①		
13	プログラム内容の作成・調査方法【練習】②	28	ツアー実践②		
14	安全管理・対処方法	29	ツアー実践③		
15	これまでの総括と振り返り	30	ツアー評価と振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。発表内容の多くは授業外で準備する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	インタープリテーション入門／小学館				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験40%、実技試験(プレゼンテーション)40%、出席率20%で、最高評価点は100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	アニマルベーシック	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Basic Animal Study	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>生物はどのようなしくみで生命を維持しているのかを理解し、その基礎的知見を習得することを目的とする。</p>				
到達目標	<p>動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の生理生態を理解できる人材を養成することを目指す。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	【授業概略】これから学ぶアニマル・ベーシックの概要を紹介する。	16			
2	【生命の誕生】最初に生命が誕生したときの地球環境について理解する。	17			
3	【生物の進化-1】生命誕生から生物の進化の過程について理解する。	18			
4	【生物の進化-2】海で誕生した生物が陸上で生活できるようになるために体のしくみがどのように適応して行ったかについて理解する。	19			
5	【血液成分と血液の役割】地球の生命は海で誕生したため、血液成分は海水成分と密接な関係がある。その血液の成分や機能について理解する。	20			
6	【血液検査-1】赤血球数と白血球数の検査方法とその結果の意味を理解する。また、白血球の免疫機能のしくみを理解する。	21			
7	【血液検査-2】ヘマトクリット値とヘモグロビン濃度の検査方法とその結果の意味を理解する。	22			
8	【ズー・ノーシス】動物由来の感染症(ズー・ノーシス)に対する取り扱い方法を理解する。	23			
9	【遺伝】遺伝のしくみを理解し、近年の目覚ましい遺伝子操作技術について学ぶ。	24			
10	【保全とは】保全の定義(保存と保護との違い)について説明。	25			
11	【生物多様性とは】生物多様性の意味とその役割について説明。	26			
12	【生物多様性とは】保全の立場で作られた生物多様性条約の役割と問題点について。	27			
13	【野生動物保護に関する関連法規-1】ワシントン条約など関連法規の種類と内容について説明。	28			
14	【野生動物保護に関する関連法規-2】関連法規の続き。	29			
15	【総括授業】前期の総括授業を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前にテキスト「基礎生物」を読んでおくこと。授業では、白板に板書を行わないため、授業中は説明したことをメモし、受講後、メモを整理し授業内容をまとめること。				
教科書・テキスト	基礎生物				
参考書	授業内で参考資料を随時紹介				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	アニマルヒストリー	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	History of Animals and Human	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>我々が地球と共存していく上で、他の動植物を無視することは出来ない。地球創世時～人が文明を持つまでの流れを理解し、動物の進化を知ることが現存する生物たちの生態、行動を理解する上で、とても重要である。生命の無い場所からの生物誕生～現在までの理解を深める。</p>				
到達目標	<p>地球の生い立ち、生物の発生、生物の進化、ヒトと地球の関係、環境破壊と保全を理解することができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	概論 講義の内容と進め方	16			
2	宇宙Ⅰ 成り立ちと銀河系	17			
3	宇宙Ⅱ 地球	18			
4	生命の誕生 原核生物～爬虫類	19			
5	魚類 魚類の発生と淡水への適応	20			
6	昆虫類 昆虫類の上陸作戦	21			
7	両生類 両生類の重力対策	22			
8	ロープワーク ロープワーク	23			
9	爬虫類 恐竜	24			
10	哺乳類 恐竜と獣弓類	25			
11	哺乳類と鳥類 互いの覇権争い	26			
12	ヒト 類人猿からヒトまでの進化	27			
13	ヒト ヒトの未来と環境	28			
14	地球の生い立ちから生物の進化、現在の地球環境について説明でき、自分の考えを述べるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	アニマルヒストリー				
参考書	なし。				
評価方法・基準	ノート提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研究	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	業界研修	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Business internship	開講期間	前期	必選区分	選択
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	450(30)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>学生が目指す業界の企業またはそれに準ずる組織・施設・個人等(以下企業という)で研修(インターンシップ)を行う。 このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標の前に、社会人とは何かを実際の現場で学ぶことを目的としている。</p>				
到達目標	<p>①学生の業界へのイメージと現実とのギャップを軽減させる。 ②実際の業界現場での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを学ぶ。 ③社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学ぶ。 ④自らの「キャリア」をデザインできる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1-4	講義: インターンシップとは、参加の意義を知る	61-64	インターンシップ参加		
5-8	インターンシップに参加	65-68	インターンシップ参加		
9-12	5月初旬から将来の目指す業界でのインターンシップに参加する	69-72	インターンシップ参加		
13-16	8時間×17日=136時間の研修を基準に1termとする	73-76	インターンシップ参加		
17-20	5月1日から9月末までに合計3termの業界研修を行う(計408時間)	77-80	インターンシップ参加		
21-24	業界研修導入授業及び中間発表、報告会の講義を行う(計42時間)	81-84	インターンシップ参加		
25-28	インターンシップ参加	85-88	インターンシップ参加		
29-32	インターンシップ参加	89-92	インターンシップ参加		
33-36	インターンシップ参加	93-96	インターンシップ参加		
37-40	インターンシップ参加	97-100	インターンシップ参加		
41-44	インターンシップ参加	101-104	インターンシップ参加		
45-48	インターンシップ参加	105-108	インターンシップ参加		
49-52	インターンシップ参加	109-112	インターンシップ参加		
53-56	インターンシップ参加	113-116	インターンシップ参加		
57-60	中間報告会	117-120	報告会		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	企業研究、業界研修(インターンシップ)希望先の選定活動やレポート作成など				
教科書・テキスト	業界研修日報、業界研修ノートなど配布資料による。				
参考書	キャリアセンターの参考情報				
評価方法・基準	<p>研修先業務の完全遂行、講義参加、報告会での発表、レポート提出が単位取得の条件となる。 【成績評価】レポート内容、報告会、インターンシップ先企業の評価を総合して評価する。</p>				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	留学	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	海外留学	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Study Abroad	開講期間	前期	必選区分	選択
講師名		授業形態	演習	時間数(単位数)	450(30)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>これからの若者たちは、さらに変化の激しい、答えのない時代を生きていくことになる。そのような中で充実した人生を過ごすには、新しい環境に柔軟に適応し、問題があれば自身で考え、チャレンジ精神を持って解決していく必要がある。海外留学は、語学力・コミュニケーション力の向上に加え、生活様式の違いや異文化体験を通してこのような能力を身につけることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>海外の文化や知識に触れることで、語学力・国際感覚を身につけ、将来グローバルに活躍できる人材となる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
出国前	オリエンテーションガイダンス 出国半年前より、オリエンテーションやガイダンスを行い、留学に対しての心構えと学校生活や普段の生活を理解できるようになる。				
1～4週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
5～8週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
9～12週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
13～16週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
17～20週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
21～24週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
帰国後	留学の振り返りとフィードバック				
<p>レベルチェックテストの結果を踏まえて、下記レベル分けに応じてレベルアップしていく。 Elementary → Pre-Intermediate → Intermediate Low → Intermediate High → Upper Intermediate → Advanced</p>					
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	アクティビティ				
教科書・テキスト	現地語学学校のテキスト				
参考書					
評価方法・基準	現地の成績表を基に、大阪ECO動物海洋専門学校の評価基準に基づき評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	施設マネジメント演習		開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Practice of Management		開講期間	後期	必選区分	必修
			授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的	<p>本演習は、産学連携企業プロジェクトを通して動物園・水族館、動物関連施設の運営について学び実践することを目的とします</p>					
到達目標	<p>施設運営における必要項目を理解して、それに付随する書類の作成ができるようになる。</p>					
授業計画(テーマ・内容)						
1	オリエンテーション 演習の概要	16				
2	運営種別を学ぶ(直営・指定管理者・民間移譲など)	17				
3	動物園見学	18				
4	水族館見学	19				
5	運営企画書の作成	20				
6	サービスマニュアルの作成	21				
7	見学施設での運営を想定してマニュアルを作成(項目の洗い出し)	22				
8	見学施設での運営を想定してマニュアルを作成(完成)	23				
9	来場者誘導演習	24				
10	Private-Finance-Initiative(通称:PFI)は	25				
11	サステナブル施設の概念を学ぶ	26				
12	防火管理・安全管理・備品管理について学ぶ	27				
13	財政状況に応じた施設マネジメント計画をプランニング	28				
14	プランニングに添削を行い、フィードバックする	29				
15	学習内容の総括を行う	30				
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト	なし					
参考書						
評価方法・基準	課題50% レポート50%で評価する					
成績評価	評価点数80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	企画プランニング演習	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Business Planning	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	240(16)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、動物園・水族館、動物施設の収益における集客につながるイベントや商品企画・立案の方法を産学連携にて実践的に学びクリエイティビティを習得する</p>				
到達目標	<p>顧客満足(ユーザーの欲求・欲望を理解)を第一に考え、問題解決に取り組み期待を超えるクリエイティビティを発揮する事を目的とする</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 企画とは何か?	16	商品企画プロセス、コンセプト開発課題提示		
2	顧客満足とは	17	環境・資源分析、STP分析、目標設定		
3	顧客価値の創造①	18	コンセプト、顧客調査		
4	顧客価値の創造②	19	環境・資源分析、STP、目標設定 (ワークショップ)		
5	ビジネスの着眼点①	20	中間プレゼンテーション(環境・資源・目標)		
6	ビジネスの着眼点②	21	顧客調査 (ワークショップ)		
7	ブルーオーシャン戦略①	22	中間プレゼンテーション(顧客調査知見)		
8	ブルーオーシャン戦略②	23	コンセプトの修正、プロトタイプ作成		
9	利益モデル①	24	企画書作成①		
10	利益モデル②	25	企画書作成②		
11	戦略立案①	26	中間プレゼンテーション		
12	戦略立案②	27	企画書修正①		
13	プランニンググループ演習①	28	企画書修正②		
14	プランニンググループ演習②	29	最終プレゼンテーション		
15	プランニング発表、前期のまとめ	30	まとめ(振り返り)		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題 レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	リスクマネジメント	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Risk Management	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習では、施設・組織内で起こりうるリスクを事前に防ぐための知識を学び、また、有事の際の対応ができるようになる事を目的とする</p>				
到達目標	<p>リスクマネジメントのプロセスを理解し、高いリスク感度をもって状況に応じた最適なリスク管理を提案(実践)することができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 授業の概要	16	ヒアリングシートの作成		
2	クライシスマネジメントとリスクマネジメントの違い	17	動物園にて担当者より業務内容/運営内容をヒアリング		
3	ISO規格でのリスクマネジメントの取り組みを学ぶ	18	水族館にて担当者より業務内容/運営内容をヒアリング		
4	リスクの種類を学ぶ(純粹リスクや投機的リスクなど)	19	リスク管理表の作成準備(項目の洗い出し)		
5	業界別でリスクマネジメントの特性を学び各アプローチを理解する	20	リスク管理表の作成①		
6	リスクの評価指標	21	リスク管理表の作成②		
7	リスクマネジメントにおけるPDCAサイクル	22	リスク管理票の修正		
8	リスクマネジメントのプロセス(リスク管理方針策定)	23	リスクの発生可能性と影響度について		
9	リスクマネジメントのプロセス(リスクの洗い出し)	24	リスク評価表の作成①		
10	リスクマネジメントのプロセス(リスクの分析評価)	25	リスク評価表の作成②		
11	リスクマネジメントのプロセス(リスク対応対策の準備)	26	リスク評価表の修正		
12	リスクマネジメントのプロセス(リスク対応策の実行)	27	リスク対応策の検討①		
13	リスクマネジメントのプロセス(リスクの監視・管理)	28	リスク対応策の検討②		
14	グループワーク(実例に基づいたリスク管理を実践)	29	ヒアリング対象の担当者から評価を受ける		
15	学習内容の総括を行う	30	学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート 課題で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	マネジメント	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Management	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習では、マネジメントの基礎知識を学びます。動物園や水族館をはじめとした動物関連施設の運営に必要な知識を学ぶと共に組織社会における役割を理解する</p>				
到達目標	<p>組織の一員として働く意味を知り、経営資源を理解し説明できるようになる。企業、施設の中でマネージャーとしての役割を理解し実践できるようになる</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 演習の概要	16			
2	マネジメントとは 定義を理解する	17			
3	マネージャーのミッション	18			
4	人と組織のマネジメントとは	19			
5	チームマネジメント(コミュニケーション)	20			
6	業務マネジメントとは	21			
7	事業管理・戦術と戦略	22			
8	環境の変化に対応する	23			
9	リスクマネジメント(コンプライアンス)	24			
10	動物施設におけるマネジメント	25			
11	動物園におけるマネジメント① グループワーク	26			
12	動物園におけるマネジメント② プレゼンテーション	27			
13	水族館におけるマネジメント① グループワーク	28			
14	水族館におけるマネジメント② プレゼンテーション	29			
15	学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	プレゼンテーション レポートで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	マーケティング演習	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Practice of Marketing	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習では、商品やサービスを生み出すには、その前提として市場を知ることが大切である。そのために必要なマーケティングの基本知識・技能を、今後の専門的、総合的な学習・実習を行うための基礎素養として身につける</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 商品やサービスを企画する際のマーケティングの役割とプロセスを理解すること マーケティングにおける企画検討と市場調査の方法を理解し、実践できること 市場調査結果を踏まえたマーケティングプランの作成を行えること 				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 授業の概要	16			
2	マーケティングの基礎	17			
3	マーケティングの理論とビジネスモデル	18			
4	商品・サービスの企画検討(アイデア創出)	19			
5	商品・サービスの企画検討(コンセプト立案)	20			
6	コンセプト立案(続き)、市場調査の基礎	21			
7	定性市場調査の基礎	22			
8	定性市場調査の実践(インタビュー)	23			
9	定量市場調査の理論と実践(アンケート設計)	24			
10	定量市場調査の理論(アンケート結果分析)	25			
11	企業見学	26			
12	定量市場調査の実践(アンケート結果分析)	27			
13	ゲストスピーカー講演	28			
14	マーケティングプランの再検討、発表準備	29			
15	マーケティングプラン発表会・総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	毎回の授業内容の復習と課題の実施				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題50% レポート50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ヒューマンマネジメント	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Communication and Leadership	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、チームで仕事をする上で必要なスキルとリーダーシップについて学びます。</p>				
到達目標	<p>リーダーシップに必要なスキルを理解し、メンバーが活性化してモチベーションを維持して目標達成することへ導くことができる</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 授業の概要	16	ゲストスピーカー講演(職場内におけるリーダーシップについて)		
2	組織におけるリーダーの定義と役割	17	指示の種類(命令・依頼・相談・暗示・募集)		
3	リーダーシップとマネジメントの違い	18	ピラミッド・ストラクチャーを用いた伝え方		
4	対人コントロールの要素を学ぶ	19	経験学習モデル理論に基づく人材育成プロセス		
5	ヒューマンマネジメントの土台となるリテラシーを学ぶ	20	リーダーシップの機能(目的達成機能と集団維持機能)		
6	積極的傾聴について学ぶ	21	リーダーシップの種類(専制型・民主型・放任型)		
7	職場内コミュニケーション手法を学ぶ	22	優れたリーダー事例からノウハウを学ぶ		
8	リーダーシップの要素(目標設定能力)	23	リーダーの行動(タスクを定義する)		
9	リーダーシップの要素(学習能力)	24	リーダーの行動(チームの活性化)		
10	リーダーシップの要素(判断力)	25	リーダーの行動(効率化する)		
11	リーダーシップの要素(コミュニケーション能力)	26	リーダーの行動(動機付けする)		
12	リーダーシップの要素(育成能力)	27	リーダーの行動(組織化する)		
13	リーダーシップの要素(業務実行力)	28	グループワーク(チーム内コンセンサスを図る)		
14	リーダーシップの要素(モチベーション管理能力)	29	グループワーク(目標に向けてチームを統率する)		
15	学習内容の総括を行う	30	学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題 レポートで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	チームマネジメント演習Zoo	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Team Management of Zoo	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本授業は、人と関わり施設を運営していくためのチームマネジメントを実際の現場で体现し、1～3年で学んだスキルを企業プロジェクトを通して発揮する事を目的とする。本講義は業界と共に授業を展開する</p>				
到達目標	<p>チームとして行動し、立てた組織目標を達成すること</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要 目的・目標	16			
2	プロジェクトオリエンテーション①(広報)情報発信	17			
3	行動計画	18			
4	中間プレゼンテーション	19			
5	計画実践	20			
6	プレゼンテーション	21			
7	プロジェクトオリエンテーション②(販売接客)売上	22			
8	行動計画	23			
9	中間プレゼンテーション	24			
10	計画実践	25			
11	プレゼンテーション	26			
12	プロジェクトオリエンテーション③(飼育展示)接客	27			
13	行動計画	28			
14	行動計画・実践	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	チームマネジメント演習	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Practice of Team Management	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、産学連携企業プロジェクトを通して動物関連施設におけるマネージャーとしての資質を習得します。</p>				
到達目標	<p>チームメンバーの特性や個性を効果的・効率的に活用し、組織の目指す短期的・中期的実現に向けたマネジメントが実践できる</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 演習の概要	16			
2	マネジメントサイクル(計画→組織化→指示→統制+調整)を学ぶ	17			
3	「計画」→目標設定の手法	18			
4	「組織化」→業務割り当ての際に考慮べき条件	19			
5	「指示」→効果的な手法	20			
6	「統制」→セルフコントロールの重要性	21			
7	「調整」→マネージャーの統合した調整手法	22			
8	的確な作業振り分けを行うための工数計算を学ぶ	23			
9	人間行動が与える影響について(クルト・レヴィンの公式)	24			
10	積極的傾聴について学ぶ	25			
11	内発的動機付けと、外発的動機付け	26			
12	ロールプレイング(メンバーでビジョンを設定して議論する)	27			
13	ロールプレイング(メンバーに作業を割り当てる)	28			
14	ロールプレイング(メンバーから作業報告を受ける)	29			
15	学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題50% レポート50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	チームマネジメント演習Aquarium	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Team Management of Aquarium	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本授業は、人と関わり施設を運営していくためのチームマネジメントを実際の現場で体現し、1～3年で学んだスキルを企業プロジェクトを通して発揮する事を目的とする。本講義はDMMかりゆし水族館と共に授業を展開する</p>				
到達目標	<p>チームとして行動し、立てた組織目標を達成すること</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要 目的・目標	16			
2	プロジェクトオリエンテーション①(広報)情報発信	17			
3	行動計画	18			
4	中間プレゼンテーション	19			
5	計画実践	20			
6	プレゼンテーション	21			
7	プロジェクトオリエンテーション②(販売接客)売上	22			
8	行動計画	23			
9	中間プレゼンテーション	24			
10	計画実践	25			
11	プレゼンテーション	26			
12	プロジェクトオリエンテーション③(飼育展示)接客	27			
13	行動計画	28			
14	行動計画・実践	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	クリエイティブZoo	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Co-operative Project Study with Zoo	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、1～3年で学んだすべてのスキルを現場で発揮し、ユーザーの満足度を得る様々なクリエイティブを企業プロジェクトを通して体現する事を目的とする。本講義は神戸どうぶつ王国と共に授業を展開する</p>				
到達目標	<p>ユーザー満足度を得るため求めるモノ・コトを理解し、様々な商品・サービスを提供する</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要、目的・目標	16			
2	プロジェクトオリエン①(イベント企画)集客戦略	17			
3	コンセプトワーク	18			
4	中間プレゼンテーション	19			
5	コンセプトワーク	20			
6	プレゼンテーション	21			
7	プロジェクトオリエン②(商品企画)売上	22			
8	コンセプトワーク	23			
9	中間プレゼンテーション	24			
10	コンセプトワーク	25			
11	プレゼンテーション	26			
12	プロジェクトオリエン③(飼育展示)飼育	27			
13	コンセプトワーク	28			
14	プレゼンテーション	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	クリエイティブAquarium	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Co-operative Project Study with Aquarium	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本授業は、1～3年で学んだすべてのスキルを現場で発揮し、ユーザーの満足度を得る様々なクリエイティブを企業プロジェクトを通して 体現する事を目的とする。本講義ではDMMかりゆし水族館と共に授業を展開する</p>				
到達目標	<p>ユーザー満足度を得るため求めるモノ・コトを理解し、様々な商品・サービスを提供する</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要、目的・目標	16			
2	プロジェクトオリエン①(イベント企画)	17			
3	コンセプトワーク	18			
4	中間プレゼンテーション	19			
5	コンセプトワーク	20			
6	プレゼンテーション	21			
7	プロジェクトオリエン②(商品企画)	22			
8	コンセプトワーク	23			
9	中間プレゼンテーション	24			
10	コンセプトワーク	25			
11	プレゼンテーション	26			
12	プロジェクトオリエン③(飼育展示)	27			
13	コンセプトワーク	28			
14	プレゼンテーション	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ドローン演習	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Dorone Operation	開講期間	後期	必修区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>遠隔操作ができる無人航空機ドローンは近年エンターテイメント、公安・公共サービス、農業、漁業、不動産、および物流などの多くの分野で活用されている。国内のドローンビジネスの市場規模は、2015年の175億円から2022年には2116億円に達することが推測されている。水族館や動物園では、飼育動物の撮影をはじめ、施設の点検、動物の調査などで活用できることが容易に推察され、今後多くの園館がドローンを導入すると考えられる。しかしながら、ドローンを操縦できる人材はまだ少ないのが現状であり、動物園や水族館においてもこうした人材が今後歓迎されることは間違いない。本授業ではドローンに関する基礎的な知識と操縦の技術を修得することを目的とする。</p>				
到達目標	<p>ドローンの種類、操縦、飛行にかかわる法令やドローンの活用事例について説明できるようになる。ドローンの基本的な操縦ができるようになる。ドローンを使用して航空写真・動画を撮影できるようになる。ドローンの飛行に必要な各種規制を理解し、飛行のための各種手続き、申請ができるようになる。飛行中、飛行前後によく起こるトラブルに対処できるようになる。ドローンの新しい活用について提案できるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ドローンの種類、機体の動きについて理解する	16			
2	各種法規(電波法、民法、改正航空法)、ドローンの飛行制限について理解する 国土地理院地図による標高の確認する	17			
3	ドローン産業の概要と民生活用について理解する	18			
4	ドローンの操縦①(飛行前の点検、各種設定)	19			
5	ドローンの操縦②(前進、後進、前進対面飛行)	20			
6	ドローンの操縦③(斜め前進、後退、90°回転前進)	21			
7	ドローンの操縦④(2点間での離着陸)	22			
8	ドローンの操縦⑤(サークル飛行)	23			
9	ドローンの操縦⑥(クローバー飛行)	24			
10	ドローンの操縦⑦(上限高度150mからの下降、リターントゥホーム)	25			
11	ドローンの操縦⑧(撮影テクニック、画像の管理)	26			
12	ドローンの保管とメンテナンス	27			
13	ドローンの飛行に関する各種手続き、申請についてについて理解する	28			
14	ドローンの新しい活用について考える	29			
15	授業の振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	毎回の授業内で指示する				
教科書・テキスト	最初の授業で配布する				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技試験、筆記試験で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	デジタルコンテンツ演習	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Digital Contents	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、IT技術を活用しデジタルコンテンツの制作を行うスキルを修得することを目的とする また、AIの理解を深める</p>				
到達目標	<p>動画撮影や編集・演出を行いSNSなどで情報発信する。また、AIに</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要 目的・目標	16			
2	SNSの歴史と取り巻く環境	17			
3	SNSとソーシャルメディアの違いについて	18			
4	SNSの種類について	19			
5	カメラの仕組みと使用方法について	20			
6	一眼レフカメラでの撮影実習	21			
7	スマートフォンでの撮影実習	22			
8	SNSの歴史と取り巻く環境	23			
9	SNSとソーシャルメディアの違いについて	24			
10	SNSの数値分析について	25			
11	SNSマーケティングの手法	26			
12	SEOについて(検索エンジンの仕組みや具体的施策)	27			
13	AI学習 動物業界におけるAIの重要性について	28			
14	AI学習 機械学習について	29			
15	授業の振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート50% 課題50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	テクノロジー演出	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Spatial Presentation by Technology	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、施設の魅力を最大限に活かすための演出技術を学び、人間心理、人の五感を刺激する音・光・映像演出を創り出す事を目的とします</p>				
到達目標	<p>Adobeソフトを中心にデザインや動画オペレーションの実践及び作品完成</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業概要・目標・目的 説明	16			
2	映像デザイン基礎①	17			
3	映像デザイン基礎②	18			
4	デザイン企画構成①	19			
5	デザイン企画構成②	20			
6	デザイン企画構成③	21			
7	デザイン制作 ①	22			
8	デザイン制作 ②	23			
9	デザイン制作 ③	24			
10	映像制作実践①	25			
11	映像制作実践②	26			
12	映像制作実践③	27			
13	映像制作実践④	28			
14	個人制作提出	29			
15	個人作品の総評	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。使用ツールの復習				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート50% 課題50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	コンピュータ演習	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Computer	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本演習は、社会人にとって必須となるPCオフィスツール(エクセル・ワード・パワーポイント)のスキルを身につけることを目的とする また、Microsoft Azure AI900の資格取得を目指す</p>				
到達目標	<p>パワーポイントを使用したプレゼンテーションデータの作成およびAI900資格の取得</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	概要 目的・目標の説明	16	概要 目的・目標 説明 AIとは		
2	エクセル基礎①	17	Microsoft Azure AI900とは		
3	エクセル基礎②	18	AI900資格試験対策①		
4	エクセル基礎③	19	AI900資格試験対策②		
5	エクセル応用①	20	AI900資格試験対策③		
6	エクセル応用②	21	AI900資格試験対策④		
7	ワード基礎①	22	AI900資格試験対策⑤		
8	ワード基礎②	23	AI900資格試験対策⑥		
9	ワード応用	24	AI900資格試験対策⑦		
10	パワーポイント基礎①	25	AI900資格試験対策⑧		
11	パワーポイント基礎②	26	AI900資格試験対策⑨		
12	パワーポイント応用①	27	AI900資格試験対策⑩		
13	パワーポイント応用②	28	AI900資格模擬試験①		
14	プレゼンテーションデータ作成①	29	AI900資格模擬試験②		
15	プレゼンテーションデータ作成②	30	AI900資格振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題50% レポート50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅡ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Global communication Ⅱ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。 TOEIC400点を取得し、短期留学・専門留学に活かせる英語力を身につける。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。</p>				
到達目標	<p><リスニング>直接自分につながるのあること(家族等)に関してよく使われる語句を聞いて、理解することができる。 <リーディング>短い簡単な私信を理解する事ができる。日常生活における簡単な文章(広告等)の中の特定の情報を見つけることができる。 <スピーキング>簡単なフレーズを使って家族や他人について話すことができる。 <ライティング>and, but, becauseのような語でつなげながら、簡単な文を書くことができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	知人・家族	一番好きな食べ物 キッチンカーのデザイン			
2	会話のスタート、驚きや関心の表現	レストランで頼みたいもの			
3	自己紹介、職場でのフォーマルなメールの読み書き	自分の町			
4	習慣 職場	過去の旅行 提案			
5	ポッドキャスト	海外生活			
6	スポーツ	お店とお店での売り物を比較 写真			
7	情報収集 サービス業界の会社へのメッセージ読み書き	広告			
8	将来のプラン	職場での危険回避 将来の予想			
9	招待 過去のイベント	健康問題 未来の自分へのメール			
10	自分の意見 お祝いの言葉	したことがあること・ないこと			
11	新しい場所	ソーシャルメディア(ネット)			
12	賛成・反対	依頼 インフォグラフィック			
13	買い物	天気			
14	新しい商品 Vlog(ビデオブログ)	道を聞く、教える			
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 1,2				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーション I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Global communication I	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。</p> <p>リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。</p>				
到達目標	<p><リスニング>直接自分につながるのあること(家族等)に関してよく使われる語句を聞いて、理解することができる。</p> <p><リーディング>短い簡単な私信を理解する事ができる。日常生活における簡単な文章(広告等)の中の特定の情報を見つけることができる。</p> <p><スピーキング>簡単なフレーズを使って家族や他人について話すことができる。</p> <p><ライティング>and, but, becauseのような語でつながらながら、簡単な文を書くことができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介 個人情報	家の周辺 旅行について尋ね答える			
2	ホテルへのチェックイン	電話でのニュース共有 ブログの読み書き			
3	プロフィールの読み書き	スキル能力			
4	友人・家族・年齢・生年月日	仕事・学校でできること、できないこと 自分やアイデアを表現する			
5	友人の写真 場所を表現する前置詞	自身の意見をオンラインでコメントする			
6	家・家具	旅行や休暇 旅行の予定			
7	ドリンクやスナックの依頼・受け取り シェアルームについてのメールの読み書き	さらなる情報要求 反復のお願い 場所の表現について読み書			
8	好きなこと	週末のアウトドアプラン			
9	テクノロジーの活用 コミュニケーションの取り方	旅行で着るべき服			
10	製品レビューの読書	夜の活動 オンライン招待			
11	平日・休日の活動、日課	過去の人物・場所・もの			
12	同意・共通点・頻度 活動報告レポートの読み書き	色・記憶、映画・俳優			
13	街の場所 道案内	昔から続けていること			
14	情報確認 ファクトシートの読み書き	レストランレビューの読み書き			
15	前期のまとめ	後期のまとめ			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 1,2				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅣ	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Global communication IV	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。 授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。 米国大学入学に必要な英語力を身につける(TOEIC730点)。自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないでやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。</p>				
到達目標	<p><リスニング>自分の専門分野での技術的な議論を含めて標準語での話であれば、抽象的・具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 <リーディング>書き手が特定のスタンスや視点を取り入れている現代の問題に関する記事やレポートを読むことができ、現代の文学的な散文を理解することができる。 <スピーキング>興味のある分野に関連する幅広い主題について明確で詳細な説明をすることができる。 <ライティング>エッセイやレポートを書いたり、情報を伝えたり、特定の観点に対して同意・あるいは反対をする理由を説明することができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	挑戦や過去の困難	賛成と反対についてのエッセイ			
2	エッセイの読み書き	サイドプロジェクト			
3	自然界での人間の活動や動物	他人のアイデア			
4	フリータイムでのアクティビティ	クレームの手紙			
5	ライフスタイル	発見と発明			
6	個人の性格や感情	人生を違うものにする事、失敗について			
7	職場での会話	アドバイス			
8	長所や短所	人々の性格、習慣、印象			
9	グループやチームワーク	公的なプロフィールの読み書き			
10	現在・未来のテクノロジー	偽の商品、また誤情報			
11	翻訳アプリなどの記事	信じている事、信じていない事			
12	予想外の出来事や落胆した経験	才能、目標			
13	価値のある経験	パフォーマンスに対するレビュー			
14	買い物	プレゼンテーション①			
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション②			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 5				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅢ	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Global communication Ⅲ	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。TOEIC500点を取得することが目標。日常生活での情報・説明や、まとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明、用件を伝えることができる。複雑なトピックではなければ、意見交換をすることができる。各技能の学習成果は以下のとおりとする。</p>				
到達目標	<p><リスニング>職場や学校、休暇中における、よく知っている事柄であれば要点を理解することができる。 <リーディング>毎日の出来事や専門分野に關係する文章を理解することができる。 <スピーキング>経験や出来事、夢について簡単にフレーズを繋げて話すことができる。 <ライティング>自分の関心のある分野について、簡単なつながりのある文章を書くことができる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	流行の食べ物				
2	お金と時間				
3	道案内				
4	意見を述べる、予定を立てる				
5	これまでの復習				
6	過去の驚いたこと				
7	問題と解決				
8	歌・テレビ・映画				
9	最近の出来事				
10	学校と仕事				
11	理由の説明と表現の詳細化				
12	成功と想像				
13	アクシデントと感情				
14	復習				
15	プレゼンテーション				
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 3・4				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ホスピタリティ	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Hospitality	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>ホスピタリティとは何かを理解し、サービスとホスピタリティの違いを学び、ホスピタリティのスキルとマインドを身に付け、各業界で活躍する人材を養成する。</p>				
到達目標	<p>理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。日本ホスピタリティ推進協会「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネーター(AHC)」資格取得する。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション:講義概要説明	16	ホスピタリティ概念とサービス概念の比較①		
2	ホスピタリティとはどういう概念なのか、起源や歴史を知る	17	ホスピタリティ概念とサービス概念の比較②		
3	ホスピタリティとサービスの違いと語源	18	ホスピタリティの実践③(笑顔・身だしなみ・立ち振る舞い)		
4	ホスピタリティの実践①(笑顔・身だしなみ・立ち振る舞い)	19	ホスピタリティの実践④(傾聴姿勢・対応力)		
5	ホスピタリティの実践②(会話力・傾聴姿勢・言葉遣い・対応力)	20	ホスピタリティの実践⑤(会話力・言葉遣い)		
6	ホスピタリティの歴史と文化 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性	21	ホスピタリティの実践⑥(会話力)		
7	「相手の立場に立つ」ことの意味① 心のバリアフリー	22	ホスピタリティ産業研究(動物園系)		
8	「相手の立場に立つ」ことの意味② 外国人へのホスピタリティ	23	ホスピタリティ産業研究(水族館系)		
9	ホスピタリティの定義 組織と社員のホスピタリティ	24	ホスピタリティ産業研究(他分野)		
10	顧客ロイヤリティとホスピタリティ	25	ホスピタリティマネジメント①		
11	ゴールデン・サークル理論から学ぶ従業員満足度につながるリーダーシップ	26	ホスピタリティマネジメント②		
12	クレーム対応	27	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア①(ディスカッション形式)		
13	アフターフォローこそホスピタリティ	28	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア②(ディスカッション形式)		
14	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア①(ディスカッション形式)	29	ホスピタリティマインドの育て方と啓蒙		
15	前期総括	30	後期総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	各回にオンデマンドコンテンツを配布するので視聴する				
教科書・テキスト	ホスピタリティ・コーディネーター教本				
参考書					
評価方法・基準	ホスピタリティ実践レポート2000字以上 の提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ビジネスマナー	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Business Manner	開講期間	通年	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>人間関係が希薄になってきているといわれ、コミュニケーションのツールも様々である。社会人として必要なコミュニケーションスキルとマインドを学ぶことで、対面でのコミュニケーションがきちんと取れることを目指す。</p>				
到達目標	<p>マナーについて理解し、社会人としての基本的な考え方を身につける。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	コミュニケーションの土台としてのマナーの必要性について。 コミュニケーション能力とは。 コミュニケーションの種類について。	16	コミュニケーション実践。実際に正しい挨拶・自己紹介が出来るようにする。		
2	コミュニケーションのプロセスを理解する。 聴くときの心がけ、方法を学ぶ。	17	基本的対話スキル「話す」の重要性を理解する。		
3	質問の種類や場面に応じた使い方があることを理解する。 話すときの心がけ、相手に伝わりやすい話し方を学ぶ。	18	基本的対話スキル「聴く」の重要性を理解する。		
4	「グループ」とはどのようなものか。 グループでの会話ではどのような心がけが必要なのかを学ぶ。	19	グループでの会話の基本と心がけを学ぶ。自己表現の仕方を学ぶ。		
5	自己紹介の3つの目的を意識して、印象に残る自己アピールを試みる。 「伝える力」を身につける。	20	ビジネスにおける表現技術「交渉」について学ぶ。		
6	何気ない一言の影響や、自分の言葉遣い、話し方のクセを知る。 「温かい言葉」について。	21	ビジネスにおける表現技術「説得」について学ぶ。		
7	適度な「自己主張」はバランスの良い人間関係が続けられることを理解する 「怒りの感情」を理解する。他者から「怒り」を向けられた時の対処法。	22	アンガーマネジメント「怒りの感情」について理解する。		
8	「報告・連絡・相談」の機能や心がけ、注意事項について。 分かりやすく伝える方法を学ぶ。	23	社会的スキル「挨拶・敬語・電話応対」について学ぶ。		
9	ビジネスに求められるマナーについて学ぶ。 敬語、接遇対応を身につける。	24	社会的スキル「接客・訪問」について学ぶ。		
10	電話応対、上座の知識、名刺の取り扱い方、紹介のマナーについて。	25	社会的スキル「クレーム・謝罪」について学ぶ。		
11	社内文書・社外文書の特徴、種類、形式について。	26	サービスの心得、サービスの基本要素について理解する。		
12	社交文書について。手紙の書き方。	27	サービス環境、プロセスについて考え理解する。		
13	サービスマインドの定義 「サービスの意味を理解し、サービスの基本「相手の立場に立つ」ことと サービスを作る3つの要素を見直す。	28	接客ロールプレイング。サービスをする側、される側それぞれの立場を理解し、行動できるようになる。		
14	テキストの事例を通して具体的に提供できる サービスと自分自身のサービスマインドを活かす行動を考える。	29	コミュニケーションの必要性やサービスマインドについての総括。		
15	学習内容の総括を行う。	30	学習内容の総括的な振り返り。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	各回でオンデマンドコンテンツを配布するので視聴する				
教科書・テキスト	コミュニケーションスキルアップ、Hand-book of Life style				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験70%、出席率20%、平常点10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザインⅡ	開講年度	2024	配当年次	2
開講科目英名	Career DesignⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>業界研修や海外留学にむけたグローバル社会人としての一般常識を身に付ける。また 学校イベントも学校のリーダーとして企画・運営できる人物を育成する。</p>				
到達目標	<p>最終学年で具体的に行う「就職活動」を経て、希望職種に付けるように、人間性や社会人基礎力を付ける。留学を意識して国際感覚とテクニカルタームを学ぶ。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	大阪ECOで学ぶにあたり2年次学生としての自覚と目標を促す。また便覧を用いて、改めて説明する。(時間割・年間スケジュール・成績評価・単位認定など)	16	後期スケジュールや時間割の説明をする。		
2	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(目標設定など)	17	冬季インターンシップについての概要説明		
3	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(現地スケジュールなどの確認)	18	特別講義(海外インターンシップ参加卒業生に当時の話を聞く)		
4	クラス宿泊実習後の振り返り	19	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ①)		
5	特別講義(動物園勤務卒業生に現状を聞く)	20	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ②)		
6	特別講義(水族館勤務卒業生に現状を聞く)	21	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ③)		
7	施設見学(展示・レイアウト方法)	22	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ④)		
8	施設見学(動物の行動観察)	23	スポーツフェスタの企画・運営		
9	夏季インターンシップガイダンス(概要説明1)	24	冬季インターンシップガイダンス(インターンシップに参加するにあたっての目標設定など)		
10	夏季インターンシップガイダンス(概要説明2)	25	卒業進級制作展の準備(役割分担・発表内容の打ち合わせ)		
11	夏季インターンシップガイダンス(目標設定など)	26	卒業進級制作展の準備(発表物の制作)		
12	夏季インターンシップの振り返り	27	卒業進級制作展の準備(発表物の制作)		
13	学園祭の企画・運営	28	特別講義(最新海外動物業界の現状を学ぶ)		
14	学園祭の企画・運営	29	特別講義(最新海外水族館業界の現状を学ぶ)		
15	前期授業統括	30	後期授業統括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	新聞を読み、説明をする練習を繰り返す。指定する書籍を読む(ソロモンの指輪・ひと イヌに会う 等)				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率50% レポート50%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザイン I	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Career Design I	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、社会人となるコミュニケーション身構え・気構え・心構えを学ぶ。また、学校イベントの企画を行い、計画・実行・運営を実際に経験し、コミュニケーション力やチームワークを学ぶ。</p>				
到達目標	<p>最終学年で具体的に行う「就職活動」を経て、希望職種に付けるように、人間性や社会人基礎力を付ける。業界仕事内容を研究する。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	大阪ECOで学ぶにあたり学生便覧を用いて説明する。(時間割・年間スケジュール・成績評価・単位認定など)	16	後期スケジュールや時間割の説明をする。		
2	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(目標設定など)	17	冬季インターンシップについての概要説明		
3	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(現地スケジュールなどの確認)	18	特別講義(観光牧場勤務の卒業生に聞く)		
4	クラス宿泊実習後の振り返り	19	特別講義(公立動物園勤務卒業生に現状を聞く)		
5	特別講義(動物園勤務卒業生に現状を聞く)	20	特別講義(公立水族館勤務卒業生に聞く)		
6	特別講義(水族館勤務卒業生に現状を聞く)	21	特別講義(アミューズメント施設支配人に現状を聞く)		
7	施設見学(展示・レイアウト方法)	22	スポーツフェスタの企画・運営		
8	施設見学(動物の行動観察)	23	スポーツフェスタの企画・運営		
9	夏季インターンシップガイダンス(概要説明1)	24	冬季インターンシップガイダンス(インターンシップに参加するにあたっての目標設定など)		
10	夏季インターンシップガイダンス(概要説明2)	25	卒業進級制作展の準備(役割分担・発表内容の打ち合わせ)		
11	夏季インターンシップガイダンス(目標設定など)	26	卒業進級制作展の準備(発表物の制作)		
12	夏季インターンシップの振り返り	27	卒業進級制作展の準備(発表物の制作)		
13	学園祭の企画・運営	28	特別講義(最新動物業界の現状を学ぶ)		
14	学園祭の企画・運営	29	特別講義(最新水族館業界の現状を学ぶ)		
15	前期授業統括	30	後期授業統括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	新聞を読み、説明をする練習を繰り返す。指定する書籍を読む(ソロモンの指輪・ひと いすに会う 等)				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率50% レポート50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザインⅣ	開講年度	2024	配当年次	4
開講科目英名	Career DesignⅣ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>将来の仕事位における自分自身のキャリア設計について具体的に考える。そのキャリア設計に沿って就職対策を学び、実際の就職活動に役立てる。</p>				
到達目標	<p>第1希望職種に内定を取ること。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	後期の授業計画について:就活中盤を迎え、授業計画の確認と、最終目標の再確認。導入:本科目の目的と、授業計画の解説。通過点であることの確認。	16	後期の授業計画について:就活中盤を迎え、授業計画の確認と、最終目標の再確認。		
2	就活における面接試験:第一印象の大切さ、服装・身だしなみ・心得について。	17	内定式準備:第一印象の大切さ、服装・身だしなみ・心得について。		
3	求人票について:Web就職システムとサクセスナビ。求人票の見方、社会保険などについて。専門学校生とは:「今までの学校」～「専門学校」の選択を振り返る。	18	業界人としての心得① 会社に入るということとは		
4	合同企業説明会について:来校企業の求人情報、研究と企業へのアプローチ(質問事項についても)の方法。	19	業界人としての心得② 組織の中で働くということとは		
5	企業へのエントリー:インターンシップや就職応募エントリーについて。	20	業界人としての心得③ 自分を成長させるキャリアパスについて		
6	インターンシップについて(導入):全体の流れ(研修前・研修中・研修終了後)の理解。SNSによる過去の失敗事例の共有。	21	業界人としての心得④ 社会人基礎力を高める		
7	インターンシップについて(実施内容):「新入社員」のように2週間体験する際の注意とアドバイス。	22	業界人としての心得⑤ 社会人基礎力を高める		
8	インターンシップについて(まとめ):インターンシップの振り返り(クラス内での発表)。	23	業界人としての心得⑥ 社会人基礎力を高める		
9	インターンシップについて(業界の評価):インターンシップの業界の評価に基づき、できていたところと今後必要なことの確認と理解。	24	業界人としての心得⑦ 社会人基礎力を高める		
10	仕事をもう一度考える:インターンシップを終え、社会に貢献することの理解と重要性、やりがいの確認。	25	業界人としての心得⑧ 業界人として遵守すべき規範について		
11	社員とフリーター、フリーランスについて:社会保障・給与・待遇の違い・職務責任についてビジネスマナーについて:敬語やビジネスマナーの実際。	26	業界人としての心得⑨ 業界人としての自分を守り高めることとは		
12	就活における筆記試験:SPI・一般常識・計算問題・四字熟語・ベットの食材についてなど。	27	業界研究① 内定先報告プレゼン		
13	キャリアアップについて:卒業(就職後の)セミナーや学会、社内研修などを通じての成長。	28	業界研究② 内定先報告プレゼン		
14	社会人基礎力について:最新年度版の配布と内容確認・卒業後の支援制度の紹介	29	キャリア開発 卒業後のキャリアマップシート作成		
15	まとめ	30	総括:今までの自分とこれからの自分の生き方報告会		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。またSUCCESS FILEにプリントやレポートをファイルし適宜見返すこと。				
教科書・テキスト	SUCCESS NOTE(大阪ECOオリジナル)、プリント、イラスト英会話:新社会人の基礎力109など				
参考書					
評価方法・基準	選択、記述を合わせた筆記試験を行い、50点満点とする。また授業への出席率を50点満点(=100%)とし、合計を評価点数とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザインⅢ	開講年度	2024	配当年次	3
開講科目英名	Career DesignⅢ	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>業界研修や海外留学を通じて身に付けた経験を情報共有して、プレゼンテーション力の向上と業界への知見を広げる。</p>				
到達目標	<p>国内や海外で身に付けてた知識・技術・マインドなどをアウトプットできる技法を学び、本格的な就職活動準備を始める。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	導入:本科目の目的と、授業計画の解説。通過点であることの確認。	16			
2	就職するとは?社会について:各人にとって「働く(お金を稼ぐ)」意義目的の確認・共有。学生から社会人へ、学校という組織と社会のしくみについて。	17			
3	専門学校生とは:「今までの学校」～「専門学校」の選択を振り返る。	18			
4	自己分析について:過去の棚卸と自己PRを見つける。得意な科目や、習得に努力している知識・技術の明確化を行い、自らの強みを明確化する。	19			
5	動物(ペット)業界の研究:ペットビジネスの市場規模、歴史、業種、職種の理解。	20			
6	動物(ペット)業界のこれから:過去10年を振り返り、5年先を考える。ペット飼育頭数の減少や「人口減」についての理解。求められる人材・人物像を明確化する。	21			
7	企業研究:企業研究の方法とポイント、選び方。例えば動物病院の場合、規模で分類する方法や診療内容での分類方法などについて。	22			
8	先輩から学ぶ:動物病院勤務の先輩を迎え、就活のポイントや経験(失敗・成功)談から学ぶ。	23			
9	就活の流れ:専門学校生(本校)の就活の流れとスケジュールについて。SNSに潜む危険性について。	24			
10	履歴書(エントリーシート)について:必要性の理解と自己分析に基づく学校指定履歴書への反映。	25			
11	ビジネスマナーについて:敬語やビジネスマナーの実際。	26			
12	就活における筆記試験:SPI・一般常識・計算問題・四字熟語・ペットの食材についてなど。	27			
13	コミュニケーションの基本:ペアで学ぶことと、グループでの共有、プレゼンテーションの必要性。	28			
14	グループからチームへ:人の集まりから、同じ理念を共有し目標をそれぞれの立場で設定。ベクトルを合わせる必要性の理解。	29			
15	まとめ	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。またSUCCESS FILEにプリントやレポートをファイルし適宜見返すこと。				
教科書・テキスト	SUCCESS NOTE(大阪ECOオリジナル)、プリントなど				
参考書	とくになし				
評価方法・基準	選択、記述を合わせた筆記試験を行い、50点満点とする。また授業への出席率を50点満点(=100%)とし、合計を評価点数とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	海洋哺乳類	開講年度	2024	配当年次	1
開講科目英名	Marine Mammal	開講期間	後期	必選区分	必修
講師名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
実務経験概要					
授業の概要・目的	<p>本講義の対象種である海洋哺乳類は、日本近海にも多数生息し、水族館やホエールウォッチング、ドルフィンスイムなどでも身近な存在であり、様々な地域で重要な観光資源となっている。しかしながら、近年、野生動物の観光利用は厳しい立場に立たされつつある。また、人間活動などが原因で、過去に生息数を大きく減少したために保護を必要とする種や、絶滅してしまった種が存在する。こうした現状において、将来、水族館やホエールウォッチングの現場などを含め、野生動物と関わる職種への就職を目指す学生は、対象動物に対する知識を身につけ、一般客へそれを伝えられるようになる必要がある。本開講科目では、海洋哺乳類の分類、進化、体の構造、生理といった基礎情報に加え、生態、社会、行動、認知などについて習得する。また、保全や飼育に対する世論についても知識を深める。</p>				
到達目標	<p>水族館飼育員に必要な海洋哺乳類の基礎生態を説明できるようになる。具体的には、分類、進化および水中適応について概説できるようになる。また代表的な種について、分布、食性、繁殖、成長および社会などについて解説できるようになる。生息状況が悪化した海洋哺乳類を中心に、その原因や保全について論じることができるようになる。人と鯨類の関わり方の歴史や飼育などの観光利用に関する現状を説明できるとともに、それらについて自分の考えを述べることができるようになる。</p>				
授業計画(テーマ・内容)					
1	鯨類の進化について概説できるようになる	16			
2	鯨類の分類について概説できるようになる	17			
3	鳍脚類の進化・分類について概説できるようになる	18			
4	海牛類やその他の海洋哺乳類の進化・分類について概説できるようになる	19			
5	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(外部形態、各部位の役割、計測、臓器)について理解する	20			
6	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(脳、嗅覚、触覚、視覚)について理解する	21			
7	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(骨格、筋肉、遊泳)について理解する	22			
8	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(皮膚、体温調整、体色)について理解する	23			
9	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(耳、聴覚、鳴音、エコーロケーション)について理解する	24			
10	海洋哺乳類の回遊や生息地利用について説明できるようになる	25			
11	海洋哺乳類の繁殖行動・戦略について理解する	26			
12	海洋哺乳類の回遊や生息地利用について説明できるようになる	27			
13	海洋哺乳類の繁殖生理(生殖器、生殖腺、排卵、妊娠)について理解する	28			
14	海洋哺乳類の生活史と社会の特徴を概説できるようになる	29			
15	前期授業のまとめ	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内容を整理し覚えておく。疑問点があれば書き出し、質問する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	海棲哺乳類大全 田島木綿子・山田格 監修 緑書房/イルカ概論 粕谷俊雄 著 東海大学出版/その他講義中に紹介する				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				